

現任者向け 認定調査員研修

【3群：認知機能】

【4群：精神・行動障害】

- ・ 認定調査実施上のポイント
(間違いやすい調査項目について)

金沢市 福祉健康局 介護保険課

【3群－4】短期記憶

<間違った事例>

調査当日の朝食で何を食べたかまで答えられた。~~しかし、物品テストを筆箱、ペットボトル、スマホで行ったが、筆箱しか思い出せなかったので、「2.できない」を選択~~

⇒ 「面接直前（または当日）、行ったこと」について、
具体的に答えることができれば、「1.できる」を選択する。

- 質問で確認が難しい場合は、「ペン」、「時計」、「視力確認表」を見せ、
復唱させ、見えないところにしまい、5分以上してから、
これらの物のうち2つを提示し、提示されていないものについて
答えられたかで選択

【3群－7】場所の理解

○特記 ~~自宅でないことは理解している~~
施設にいることは理解している

○ポイント

施設入所中の場合、施設名や施設種別について
答えることができなくても、施設にいることが理
解できれば「1. できる」を選択

※自宅でないだけでは、広域でわかりにくい

テキストP109

BPSD関連行動として整理する項目

○対象項目

第4群のすべて

第3群-8（徘徊）、第3群-9（外出すると戻れない）

第5群-4（集団への不適應）

※評価軸が「有無」で第3群以上の項目すべてが対象

- ★注意：記憶障害などの中核症状がもとになり出現する行動・心理状態に限られる
※元々あった（中核症状が伴わない）行動は含まれない

【4群－3】感情が不安定

<調査のポイント>

- 評価軸は「有無」
- **B P S D 関連行動**
(もともと感情の起伏が大きいだけではあてはまらない)
- **場面や目的から見て不適當な行動** (急に泣き出す等)
- **感情の自制ができない** (涙ぐむ状況が不自然に持続)

<間違った事例 1>

○特記

昔から感情の起伏が激しく、妹が言ったことで
気に入らなかつたりすると黙ってしまう。

妹はその都度しばらくして落ち着いたところに話す。
月に1～2回程度あり、

~~「2. ときどきある」を選択。~~

定義にあてはまらないため「1. ない」を選択し、
特記のみとする。

○ポイント

BPSD関連行動に該当するか。

テキスト P 118

<間違った事例 2>

○特記

リフト浴のリフト昇降時「怖い。入浴はしない。」と訴えることが 2 / W あるため「~~3. ある~~」を選択。
定義にあてはまらないため「1. ない」を選択するが、その都度職員が 10 分程度なだめている。

○ポイント

B P S D 関連行動に該当するか。
場面や目的から見て不適當な行動か。
感情の自制ができないか。

【4群－6】大声を出す

○理由があって起きている行動

デイサービスの職員から、気に入らないことがあると大きな声を出して怒り出すということが月に1～2回あると聞き取る。

~~「2. とさどさある」を選択。~~

○性格による行動

怒る時は大声を出してお互い罵声を浴びせ合うことが日に複数回ある。

~~「3. ある」を選択。~~

定義にあてはまらないため「1. ない」を選択。

その都度、職員がなだめており、落ち着くまで10分ほど目が離せず手間となっている。

テキストP 121

【4群-12】ひどい物忘れ

<調査のポイント>

- 評価軸は「有無」
- **BPSD関連行動**（単なる物忘れは対象外）
- **周囲の者が何らかの対応をとらなければならない**ような物忘れ（行動が起きている必要なし）

<間違った事例>

○特記

長男夫婦が面会に来て、長男は分かるが、妻は分からないようで他人行儀な挨拶をするため
~~「3. ある」を選択。~~

定義にあてはまらないため「1. ない」を選択する。

○ポイント

周囲の者が何らかの対応をとらなければならない
ような物忘れか。